

ケアマネ通信



第17号
2023
Mar.

今月の表紙：ざま介護支援専門員協会

ざま介護支援専門員協会は、現在会員数約100名とコンパクトで地域の特性なのか？割合とのんびりとした雰囲気、まだまだFAXでやりとりをおこなうアナログな協会です。

今年度協会の活動としては、座間市生活援護課自立支援サポートの担当者から「複数の課題を抱える世帯への支援」についての研修や医師会主催研修の企画、運営の手伝い、主治医意見書事前問診票作成のワーキングの参加など、行政や医師会と連携し活動をおこなってきました。

今後は、災害時を想定しどのようにしたら地域と連携できるか？を課題とし自治会や民生委員さんとの地域交流ができればと思い、研修や交流会を企画したいと思います。

小さい市だからこそできる介護支援専門員としての役割を考え、地域と協力して活動していきたいと思っています。

ざま介護支援専門員協会 藤川純子

目次

要望書について	2	第20回 神奈川県介護支援専門員	
ケアプランの言葉	5	研究大会を振り返って	7
ケアマネあるある	6	編集後記	7
ケアマネリレーコラム	6	インフォメーション	8

要望書について

神奈川県介護支援専門員協会 理事長 諏訪部 弘之



日頃より会員の皆様方には、当協会の活動にご協力いただき、誠にありがとうございます。令和4年12月21日、介護支援専門員の人材不足に関する実態把握と今後の対応について、要望書を神奈川県に提出しましたので、ご報告いたします。

介護支援専門員の人材不足については、現場感としては感じつつも、整理されないままとなっております。「この課題については地域の声を聞いた上で、その後の対応を検討すべきではないか」と問題提起があったことから、地域連絡会と当協会の協議の場である『協力団体会員会長会議』において意見交換を行いました。そこで整理された課題をまとめ、この度、要望書の提出へといたっております。

県との話し合いの場においては、介護支援専門員は介護保険制度の根幹をなす専門職であることを伝え、人材不足に対する実態把握と課題への対応については、今後、継続的に協議の場を持つこととなりました。

今後も当協会は皆様の思いをしっかりと受け止める職能団体であり続けたいと思っております。会員の皆様には、これからもご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。

要望書提出 記録

日時：令和4年12月21日（水）16：00～17：00
神奈川県庁東庁舎5F 51会議室

出席者

神奈川県福祉子どもみらい局福祉部地域福祉課
河田課長、細川副課長、廣田グループリーダー、高木主事
神奈川県福祉子どもみらい局福祉部高齢福祉課
柏木グループリーダー、柳沢主事
神奈川県介護支援専門員協会
理事長 諏訪部、副理事長 小藪、副理事長 山本



以下の内容の要望書を神奈川県知事宛に提出した。

我々一般社団法人神奈川県介護支援専門員協会は、「高い倫理観をもち、ご利用者の立場にたったケアマネジメントを実践すること」「質の高い介護サービスやインフォーマルサポートなどの支援が利用できるようにすること」を理念に掲げる、神奈川県内の介護支援専門員と協力団体を会員とする専門職団体です。

この度、神奈川県内の協団体会員（地域単位の介護支援専門員連絡会；資料別添）との協議の場において、介護支援専門員の人材不足について多くの苦慮する現場の声があがりました。介護支援専門員の受験者数は激減しており、介護保険創設当初は、9万名を超えていた合格者数が、令和3年度は1万人程度まで減少しており、求人をして全く反応がないという声も聞かれました。

都道府県は介護保険法第六十九条の二において介護支援専門員の登録を行い、また同法第一百八条において従事者の確保について介護保険事業支援計画に定めることとされています。高齢者人口は2040年に向けて増え続け、2025年には団塊の世代が後期高齢者となります。このような時代背景において、介護保険制度の根幹をなす介護支援専門員の不足は、居宅介護支援を担当してもらえず、介護サービスを利用できないといった介護難民の発生へと繋がり、高齢者の権利擁護、医療と介護の連携、家族介護者への支援など、社会に大きな支障が出ることとなります。また、介護保険創設時の理念である「利用者本位」（利用者の選択により、多様な主体から保健医療サービス、福祉サービスを総合的に受けられる制度）に背き、県民にとって不利益となることを本会として強く懸念します。つきましては、下記の通り要望いたします。

記

【要望1】

介護支援専門員の人材不足に関する実態把握調査を行い、その課題について継続的に本会との協議の場を持っていただきたい。

【要望2】

介護支援専門員の人材確保と就労時の雇用支援、安定的な就労が継続できるような環境整備とともに、処遇改善に向けた検討を行っていただきたい。

要望書を提出後、意見交換を行った。

1. 要望1について

〈協会から〉

- ・人材不足の課題は民間の事業者の人材育成や採用活動の取組だけでは限界がある。地域を支える社会資源の危機であり、公共の課題として捉えてほしいこと。
- ・受験者数や実務研修合格者ではなく、就業者としての実態把握が必要であること。
- ・地域の介護支援専門員連絡会からも聞き取りを行い、ほぼ県内全域の課題であること。
- ・今後の高齢者人口の増加はデータとして予測できているが、現状すでに不足している状況で、将来に対して危機感を感じていること。
- ・地域によっては利用者本位が叶わない実態があること。
- ・介護支援専門員の登録数は把握していても、就業者数の実態は把握できていないこと。

〈県の回答〉

- ・実態把握といっても、対象者が就業者か未就業者なのか。個人単位で把握するのか事業所単位なのかなど、様々な切り口がある。予算や回収率の課題などはあるものの、神奈川県としての強み、介護支援専門員協会の強みがそれぞれにあり、今後それをすり合わせる形で協議を続けていきたい。

2. 要望2について

〈協会から〉

- ・処遇改善加算の関係から、手当の問題として介護支援専門員への異動や転職を断るケースがある。
- ・社会構造の変化から、介護支援専門員に求められる幅は広がっているが、処遇がそれに追いついていないと感じている。
- ・法定研修費を自己負担で払っている者も多く、特に実務研修は異動の指示がなければ、有給と自費で対応するケースが多くなる。
- ・環境整備という点においては、保険者間の書類の違いや、オンライン未対応の申請関係など、県として対応できる点もあるのでは。

〈県の回答〉

- ・処遇改善加算等については、介護報酬との関係もあるので、一概には回答できないが、実態としては承知した。
- ・法定研修等の補助についても、予算の兼ね合いがあるので、即答はしかなる。
- ・環境整備については、持ち帰って検討させていただく。

3. 今後の方向性

例として潜在看護師の話が出たが、先行事例になりえる可能性があるため、管轄は違うものの、調べることは可能とのこと。

県としては、このように介護支援専門員の実態を知ることができたのは良い機会であり、実態調査についても、課題を明確にするという点において重要なことだと共通認識を得る。今後も継続的に本会と協議の場を持つことを確認し、閉会となった。



神奈川県知事 黒岩 祐治 殿

2022年12月21日

一般社団法人 神奈川県介護支援専門員協会
理事長 諏訪部 弘之

介護支援専門員の人材不足に関する実態把握と今後の対応について（要望）

我々一般社団法人神奈川県介護支援専門員協会は、「高い倫理観をもち、ご利用者の立場にたったケアマネジメントを実践すること」「質の高い介護サービスやインフォーマルサポートなどの支援が利用できるようにすること」を理念に掲げる、神奈川県内の介護支援専門員と協力団体を会員とする専門職団体です。

この度、神奈川県内の協力団体会員（地域単位の介護支援専門員連絡会：後述団体名参照）との協議の場において、介護支援専門員の人材不足について多くの苦慮する現場の声があがりました。介護支援専門員の受験者数は激減しており、介護保険創設当初は、9万名を超えていた合格者数が、令和3年度は1万人程度まで減少しており、求人をしていても全く反応がないという声も聞かれました。

都道府県は介護保険法第六十九条の二において介護支援専門員の登録を行い、また同法第一百八条において従事者の確保について介護保険事業支援計画に定めることとされています。高齢者人口は2040年に向けて増え続け、2025年には団塊の世代が後期高齢者となります。このような時代背景において、介護保険制度の根幹をなす介護支援専門員の不足は、居宅介護支援を担当してもらえず、介護サービスを利用できないといった介護難民の発生へと繋がり、高齢者の権利擁護、医療との連携、家族介護者への支援など、社会に大きな支障が出ることとなります。また、介護保険創設時の理念である「利用者本位」（利用者の選択により、多様な主体から保健医療サービス、福祉サービスを総合的に受けられる制度）に背き、県民にとって不利益となることを本会として強く懸念します。つきましては、下記の通り要望いたします。

記

【要望1】

介護支援専門員の人材不足に関する実態把握調査を行い、その課題について継続的に本会との協議の場を持っていただきたい。

【要望2】

介護支援専門員の人材確保と就労時の雇用支援、安定的な就労が継続できるような環境整備とともに、処遇改善に向けた検討を行っていただきたい。

以上

協力団体会員※順不同

一般社団法人 横浜市介護支援専門員協議会
一般社団法人 ケアネットOHMY
一般社団法人 茅ヶ崎市介護サービス事業者連絡協議会介護支援専門員部会
特定非営利活動法人かまくら地域介護支援機構鎌倉ケアマネ連絡会
横浜市介護老人保健施設連絡協議会施設ケアマネジャー部会
川崎市介護支援専門員連絡会
さがみはら介護支援専門員の会（ケアマネネットワーク）
藤沢市居宅介護支援事業所連絡協議会
横須賀市居宅介護支援事業所連絡協議会
ひらつか地域介護システム会議居宅介護支援連絡会
いせはら介護支援専門員協会
あやせ介護支援専門員協会
厚木医療福祉連絡会ケアマネジャー部会
ざま介護支援専門員協会
秦野市介護支援専門員協会
大和ケアマネジャー連絡協議会
Z-ケアネット
湘南ウエスト大磯二宮介護保険事業者連絡会
磯子ケアマネ連絡会
はこねケアマネの会
ケアマネの会「おあしす寒川」

あしがらケアマネジャー連絡会
三浦ケアマネジャー連絡会
えびなケアマネ連絡会
介護リハビリ研究会、
旭ケアマネット
第三木曜日会
港北事業者連絡会「ガンバ港北」
泉区介護支援専門員連絡会（ケアマネフォンテ）
ほどがやケアマネット栄ケアネット
金沢ケアマネ倶楽部
緑区ケアマネ連絡会
神奈川区ケアマネクラブ
にしまる連絡会
港南区ケアマネ連絡会
青葉区ケアマネジャー連絡会
南区介護支援専門員連絡会「あったかネット南」
ケアネットつづき
中区事業者ネットワーク「かいごのWa！なか」
ケアマネット戸塚
瀬谷ケアマネット
鶴見事業者連絡会つばさねっと

ケアプランの言葉

私たち、ケアマネジャーは相談のプロセスで、多くの方の生活のあり方に触れ、クライアントの発する言葉の端々から、その方のニーズを掘り起こす作業を行い、本人の思いに向きあい、ケアマネジャーとして分析した結果を言葉にして計画書に記載します。

私が、まだ、駆け出しで、右も左もわからないで仕事をしていた頃、一人の女性を担当させていただくことになりました。

彼女Aさんは、一人暮らし。長く看護師をしており、勤務先の病院に入院してきた男性に見初められ、40代で結婚しました。

ご主人は、再婚でお子さんが二人いたようです。

結婚当初は、ご主人・お子さんとの関係も良好で、家族で幸せに暮らしていたようです。

Aさんも幸せを感じていたようです。

ところが、病気を発症し、ご主人が他界すると、二人のお子さんとの関係が急変。Aさんは、身体一つに近い状態で家を追い出されてしまいました。

自分の貯えを切り崩して、生活する日々を送っていました。

誰を信じていいのかわからなくなったAさんは、何とか借りたアパートに籠るような日々を送っていました。入浴もせず、食事も簡単なもので済ませ、昼も夜も炬燵で横になって生活する日々を送っていました。

訪問した民生委員さんの勧めで、介護保険を申請し、縁あって私が担当することになりました。私は、自宅を訪問し、アセスメントを行った結果、食事の確保と身体清潔の保持が大きな課題であると判断しました。

何とかデイサービスの利用につなげようと、民生委員さん、私の勤務先の同一法人のデイサービスの相談員にも協力して頂き、週1回のペースでデイサービスを利用することができました。

そして、利用開始の日の出来事。

炬燵で寝ていたところを、迎えに行った相談員の説得でセンターに来所。午前中の入浴、昼食と楽しそうに過ごしていました。

午後のプログラムまでのひと時、Aさんはフロアの端にあるベッドに横になり、昼寝を始めました。プログラム開始の頃、私がフロアに顔を出すと、Aさんは気持ちよさそうにベッドでウトウトしていました。

相談員に確認すると、初回の緊張もあり、かなり疲れているようなので、このまま休んでいてもらおうということになりました。

少しでも落ち着いて休めるようにと思い、フロアと仕切るカーテンを閉めようとしたときに、Aさんから思わぬ言葉が発せられました。

『社会と繋がりながら寝ていたい。』

その言葉を聞いて、私は考えてしまいました。デイサービス利用を通じて社会参加を促進するというような言葉を簡単に使ってしまうがちですが、社会とのつながり方は個性があり、AさんにはAさんのつながり方があり、社会がある。それを大切にプランを立て、言葉にしなければならないという思いが心に残りました。

広報出版委員（O）

ケアマネあるある



ケアマネジャーの業務で大変なことの一つに挙げられるのは、やはり記録の入力ではないでしょうか。いろいろな業務が重なると記録を入力するだけでも一苦勞です。そこでおすすめしたいのがZOOMの普及により持っている方も多いと思われるマイク付きのヘッドセットを使用した、文字の音声入力です。Windowsの音声認識の機能から自分の声を登録することで、Wordなどで音声入力が可能になります。これを利用すると長文も簡単かつ早く入力することができます。ちなみにこのコラムも音声入力を使用しております。キーボードのみよりも簡単に入力することができました(笑)。皆様もぜひ一度お試ししてみてくださいはいかがでしょうか。

広報出版委員 (S)

～神奈川県で働くケアマネジャーが日々思ったことなどを綴っていきます～

ケアマネリレーコラム

地域包括支援センター泉正園 湯山 由美

会員の皆様こんにちは。私は、綾瀬市にあります、地域包括支援センター泉正園で、主任ケアマネジャーとして勤務している、湯山由美と申します。

綾瀬市は、神奈川県の県央に位置する人口 8 万 3 千人余の市です。農業が盛んで「駅のない市」として有名?でしたが、最近では、綾瀬スマートインターチェンジが開通したことで、人や車の出入りが多くなった印象を受けます。

市内地域包括支援センターは基幹型 1 か所、委託型 4 か所あり、当包括の担当圏域には、8 千人強の高齢者が居住しています。包括職員は 5 名ですが、同法人の居宅介護支援事業所に 9 名のケアマネが在籍しているため、日々、相談しあいながら業務に当たっています。

今一番の悩み事は、「要介護認定を受けた利用者を、担当してくれるケアマネが

見つからない事」です。市内のケアマネ事業所はすでに飽和状態、市外に頼んでもなかなか見つからず時間を要しています。あやせ介護支援専門員協会でケアマネ不足を解消するにはどうしたらいいか?という課題について意見交換した時に、一番多く上がったのは、「ケアマネになりたいという人を増やすために、ケアマネ業務の魅力を伝える」という意見でした。私自身も、20年以上ケアマネ業務を続けていく中で、嬉しいことも、思うようにいかなかったこともたくさんありましたが、この仕事が続けられているのは「人と関わることが好き」で「人の役に立っている」ことが実感できるからだと思えます。

これからも職場の仲間や地域の仲間とともに、ケアマネ業務の魅力を伝えつつ、細く長く続けていかれたら良いなあ~と思っています。

第20回 神奈川県介護支援専門員研究大会を振り返って

研究大会運営委員長 加藤 由紀子

令和5年2月11日(土)第20回 神奈川県介護支援専門員研究大会が、ひらつか地域介護システム会議居宅介護支援連絡会及び湘南ウエスト大磯二宮介護保険事業者連絡会共催のもと、ZOOMにて開催されました。

今大会のテーマ「つなぐ~彩り豊かな人とのつながり~」です。

午前中は平塚市・秦野市・大磯町・二宮町のケアマネによる演題発表。

午後は浅野睦先生(株式会社フォーサイトコンサルティング代表取締役)による「私たちができる地域づくり」から災害やBCP等の講演。

また、パネルディスカッションでは「災害時に備える」をテーマに浅野睦先生や平塚市職員の辻原氏の参加をいただき、有意義なディスカッションとなりました。

災害はいつ起こるかわかりません。まず1つから初めてみる。その人に必要なものを用意するなど、平時から準備しておく大切さを痛感しました。

今回の大会を通じて、地域で多職種とケアマネのつながり、災害時にどう備えておくかの参考となれば幸いです。

また、大会を開催するにあたり、ひらつか地域介護システム会議居宅介護支援連絡会、湘南ウエスト大磯二宮介護保険事業者連絡会の皆様をはじめ、協賛いただいた企業、後援をいただいた職能団体等々のご尽力のおかげと感謝申し上げます。

次年度は藤沢市居宅介護支援事業所連絡協議会と共催での開催が決定しています。

集合で大会が開催されることを願いつつ、皆様、次年度は藤沢市でお会いしましょう!!

編集後記

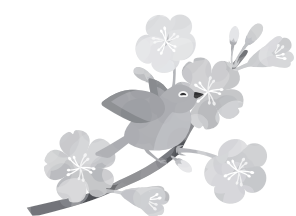
新型コロナが発生してもう満3年が経過してしています。政府は、今後感染対策と経済活動の両立にかじを切ることになりました。私たちの生活の振る舞いもニューノーマルといわれ大きく変わっています。

かつて、人類はペストのパンデミックに長期間さらされました。17世紀のパンデミックに、ケンブリッジ大学が閉鎖されました。当時大学生だったニュートンも1年半の自宅待機を余儀なくされました。

彼は休暇中に、リンゴが落下するのを見て万有引力のアイデアを思いついたという逸話は有名です。

リンゴを一日一個食べると医者をお遠ざけるといふイギリスのことわざがあります。りんごは古くから栄養価の高い食材として知られています。今はりんごに加えて、十分な休息も栄養として取り入れ、コロナへの免疫力をアップしましょう。

広報出版委員 (T)



「区分支給限度額についてのアンケート調査報告書」のご報告と御礼

制度改正・調査研究委員会

令和3年度に引き続き、県内の居宅支援事業所に依頼し、区分支給限度額についてのアンケート調査を行いました。令和4年6月給付管理（7月審査分）1,348人の利用者情報を集計し、記載不備のない1,333人のデータを解析した。今回のアンケート項目から集計を進めるなかで、特にご家族の状況と認知症高齢者の日常生活自立度に焦点を当て考察を行いました。詳細はホームページ掲載の報告書をご覧ください。ご協力いただきました皆様、誠にありがとうございました。令和5年度も調査を計画しております。ご協力をお願いします。

一般社団法人 神奈川県介護支援専門員協会 ケアマネの森
(<https://www.care-manager.or.jp/>)

日本ケアマネジメント学会第22回研究大会が、久しぶりに横浜みなとみらいで開催されます。

今回は日本老年学会と合同大会となります。

皆様の参加をお待ちしております。

日時：2023.6.17（土）-18日（日）

場所：パシフィコ横浜 ノース

メインテーマ「共生社会におけるケアマネジメントー超高齢化社会への新たな展開」

大会HP：<http://jscmbiz.sakura.ne.jp/taikai/>

■「会員の皆様へ」

会員資格は、年度ごとの自動更新になります。退会のご意向がある会員におかれましては、3月31日までに退会届のご提出をお願い致します。ご提出がない場合、次年度の会費請求の対象となります。また、今年度の会費を未納されている方は、今年度会費ご入金の上で退会となります。

ご自宅住所やご所属が変更になった場合は、変更届のご提出をお願いいたします。退会届、変更届は本会ホームページよりダウンロードできます。ご記入の上、FAXもしくは郵送でご提出ください。

■メールアドレス登録のお願い

会員の皆様へは、本会主催研修会等の情報をメールでご案内しています。

メールアドレスの登録がお済みでない方は、本会ホームページ「ケアマネの森」のトップページ「メールアドレスご登録のお願い」より登録をお願い致します。メールアドレスを変更したい方も、こちらから変更をおこなってください。

Contact

一般社団法人神奈川県介護支援専門員協会 事務局
〒231-0023

横浜市中区山下町 23 番地 日土地山下町ビル9階

TEL 045-671-0284 FAX 045-671-0287

E-mail jimu@care-manager.or.jp

HP <https://www.care-manager.or.jp/>

◎編集 / 発行

一般社団法人

神奈川県介護支援専門員協会

広報・出版委員長 中西 紀章



Facebook
はこちら↑



ホームページ
ユーザーはこちら↑